

ラリーをいかしたまちづくりビジョン ～ラリーのまち豊田市を目指して～

ビジョン策定にあたって

■ 計画策定の背景

私たちのまち豊田市では、ラリー競技の最高峰である「世界ラリー選手権（WRC）」をはじめ、地方ラリー選手権である「豊田しもやまラリー」、「TOYOTA GAZOO Racing ラリーチャレンジin豊田」などが開催されています。このようにラリー競技が盛んなまちは日本全国でも豊田市だけです。我々は、これをチャンスと捉え「ラリーをいかしたまちづくり」を計画的かつ効果的に進めていく必要があります。

2028年までラリージャパンを継続開催することを豊田市が決定したのを契機として、世界ラリー選手権開催の意義、まちづくりのビジョン、成果目標を明示した「ラリーをいかしたまちづくりビジョン」を策定し、全庁一丸となりビジョン達成に向けた取組を推進していきます。

■ 計画の位置づけ

第9次豊田市総合計画（ミライ実践戦略2030）

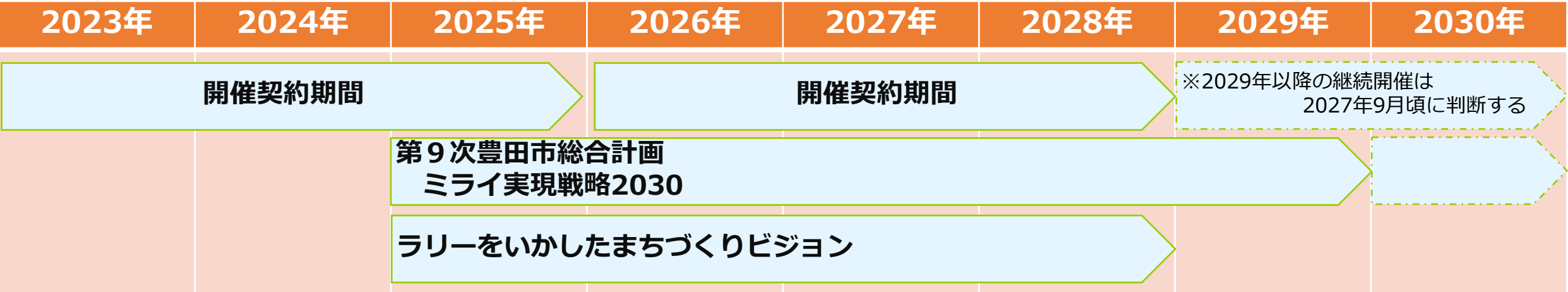
- 取組方針 ともにこどものミライに夢と希望をつくる
- 取組目標 こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる
- 施策 「クルマのまち」の更なる魅力の向上



ラリーをいかしたまちづくりビジョン

- ・ミライ実践戦略2030を具現化するための道しるべ
- ・まちづくりを推進するための具体的な取組内容

■ 計画期間



ラリー競技の開催を通じて目指す方向性と施策の展開

元気で活力のあるまちづくり

- ☑ラリー競技の開催をきっかけに地域経済が活性化されている
- ☑ラリー競技の開催を通じて賑わいのあるまちが形成されている
- ☑ラリー競技の開催をきっかけに市民主体のまちづくりが展開されている

まちへの誇り・愛着を育むまちづくり

- ☑世界ラリー選手権の開催を市民が楽しみにしている
- ☑豊田市で世界ラリー選手権が開催されることを市民が誇りに感じている

クルマの魅力を身近に感じられるまちづくり

- ☑迫力あるラリー競技を通じてラリーファンの市民が増えている
- ☑ラリーカーに触れる機会を通じてクルマに興味や関心を持つ市民が増えている



ラリーのまち豊田市



施策の柱	施策
柱1 産業の振興	施策① 世界ラリー選手権の開催と地方ラリーの開催支援
	施策② シティプロモーションの推進
	施策③ ラリー文化の定着
	施策④ 地域経済の活性化
柱2 山村地域の振興	施策① 地域資源をいかしたまちづくりの推進
	施策② 競技コース周辺環境改善
	施策③ 交流人口の拡大と地域を支える人材育成
	施策④ まちに対する誇りと愛着の醸成
柱3 交通安全の推進	施策① ラリードライバーを活用した交通安全の啓発

柱1 産業の振興



施策① 世界ラリー選手権の開催と地方ラリーの開催支援

世界ラリー選手権をはじめ、TOYOTA GAZOO Racing ラリーチャレンジなどの地方ラリー競技を開催し、参加者や観戦客の消費行動を促すとともに、ラリー競技やクルマに興味を持つ市民を増やしていきます。

取組方針

☑魅力的な世界ラリー選手権の継続開催

主な取組：ファンを魅了するコース設定、多くの人が観戦できるリエゾン設定

☑地方ラリーの開催支援

主な取組：豊田しもやまラリーの開催支援、JMRC中部ラリーセミナーの開催



指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
市内で開催される ラリー競技の観戦客	563,600人	565,000人以上

※現状値（2023年）は豊田スタジアムSSSを開催



施策② シティプロモーションの推進

世界ラリー選手権の映像を世界中に発信し、ラリーの魅力とともに本市ならではの魅力的な景観などをPRします。また、各種メディア媒体を有効に活用した積極的かつ戦略的なプロモーションを実施します。

取組方針

☑大都市圏におけるラリージャパンの開催PR

主な取組：大都市圏における大会概要発表、大都市圏におけるファンミーティングの開催

☑メディア媒体やSNSを活用した本市の魅力発信

主な取組：SNSを活用したジャストタイムな情報発信、観戦エリア周辺の観光情報の発信



指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
ラリージャパン開催を通じたメディア露出価値	104億円	110億円以上

※現状値の露出状況：TV 139番組、新聞 309記事、SNS 381,140記事、WEB 7,851記事

施策③ ラリー文化の定着

幅広い世代にラリーの魅力を発信していくことで「ラリーのまち」としてのブランド力を高めるとともに、ラリー文化の定着を目指します。また、地元企業に応援していただけるラリージャパンの開催を目指します。

取組方針

☑ラリー競技の魅力発信

主な取組：ラリー教室の開催、ラリー関連講座の開催

☑ラリー関連イベントの開催

主な取組：eスポーツ体験会の実施、公共施設（博物館など）を活用した展示

☑市民や企業を巻き込んだ取組の推進

主な取組：ホストタウンパートナーの参加呼び掛け、ラリー気運醸成プロジェクトの実施



指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
ラリージャパン開催を支えるホストタウンパートナーの数	52社	100社以上

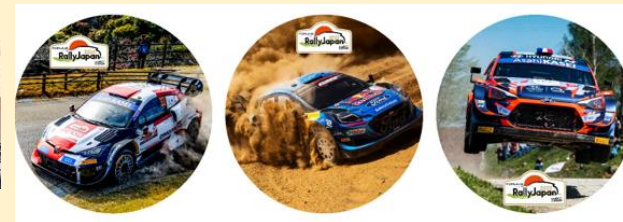
※ホストタウンパートナー：大会開催に賛同し支援をいただく地元企業



施策④ 地域経済の活性化

ラリー競技の参加者や観戦客の宿泊、飲食、小売を中心とした消費行動を促すとともに、世界ラリー選手権の運営においては、積極的な地元業者への発注により、地域経済の活性化を図ります。また、中心市街地で雰囲気盛り上げるラリーイベント等を実施します。

取組方針



☑ラリー競技開催に合わせた関連イベントの実施

主な取組：モーターフェスタの開催、パブリックビューイングの実施、シティドレッシング

☑自然、歴史、文化などをいかした観光交流の推進

主な取組：誘客プロモーションの実施、ラリーツーリズムの推進

指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
ラリージャパン 開催に伴う経済波及効果	126億円	130億円以上



※現状値（2023年）は豊田スタジアムSSSを開催

施策① 地域資源をいかしたまちづくりの推進

地域住民の機運醸成を目的とした盛り上げ事業を展開します。また、地域住民が一体となったりエゾン応援、観戦客に対するおもてなし事業を積極的に実施するほか、地域の魅力を伝えることでリピーター作りを進め、地域回遊と交流人口の拡大を図ります。

取組方針

☑地域実行委員会による盛り上げ・おもてなし事業の展開

主な取組：おもてなしマルシェの開催、フォトコンテストの開催、トークショーの開催

☑地域の特色をいかしたグッズ等の作成

主な取組：地元工芸を活用したトロフィーの制作、地域産材を活用した応援グッズの作成



指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
ラリー競技開催を期待する店舗の割合	—	6割以上



施策② 競技コース周辺の環境改善

競技コース周辺の支障木伐採、路面清掃などの環境改善を図ります。また、幅広い山村地域に観戦エリアを広げていくとともに、主要観光施設などの公共施設の修繕や地域観光にもつながるような誘客施策を推進していきます。

取組方針

☑競技会場周辺の環境整備と観光振興の推進

主な取組：支障木伐採、観戦エリア周辺の施設整備、主要施設をいかした観光振興

☑山村地域におけるラリージャパン新競技コースの検討

主な取組：新競技コースの検討、リエゾンルートの検討



指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
これまでに開催した山村地域でのSSの本数	4 SS	6 SS

※2024年までの実績：伊勢神トンネルSS、稲武ダムSS、三河湖SS、旭高原SS

施策③ 交流人口の拡大と地域を支える人材育成

市民活動団体による各種取組、ボランティアによる大会運営の支援などを通じ、それぞれの役割や取組に誇りを持つことでラリーに携わる魅力を感じていただきます。この活動を通じて社会活動に携わる意義を深め、地域を支える人材づくりを進めます。

取組方針

- ☑市民活動団体による共働のラリー気運醸成プロジェクト
 主な取組：ラリー気運醸成プロジェクトの実施
- ☑ラリージャパンを契機としたボランティアの育成
 主な取組：ボランティアの育成、マーシャル登録制度の運用



指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
ラリージャパンの運営に携わるボランティアの数	延べ1,595人	延べ1,600人

施策④ まちに対する誇りと愛着の醸成

世界ラリー選手権が開催されるまち、自分たちの住むまちがメディアを通じて日本国内や海外に配信されることで、まちに対する誇りと愛着を醸成します。また、「クルマのまち」、「ラリーのまち」としてのアイデンティティを育みます。

取組方針【再掲】

☑山村地域におけるラリージャパン新競技コースの検討

主な取組：新競技コースの検討、リエゾンルート of 検討

☑地域実行委員会による盛り上げ・おもてなし事業の展開

主な取組：おもてなしマルシェの開催、フォトコンテストの開催、トークショーの開催



指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
ラリージャパン開催を誇りに感じる市民の割合	—	6割以上

※「施策④ まちに対する誇りと愛着の醸成」は全市的に係るものであるが、とりわけ山村地域で暮らす市民を対象に醸成していきたい意図から「柱2 山村地域の振興」で整理しました

施策① ラリードрайバーを活用した交通安全の啓発

わがまちアスリートに認定されたラリードрайバー等を起用し、安全運転に必要な運転技術や危険予知能力の向上に向けた講習会を開催し、市民の交通安全に対する意識向上を目指します。

取組方針

- ☑ラリードрайバーを活用した交通安全講習会の開催
 主な取組：交通安全講習会の開催、とまってくれてありがとう運動
- ☑ラリー要素を取り入れた交通安全実習の開催
 主な取組：グッドドライバー・レッスン、ライダースクール



指標	現状値 (2023年)	目標値 (2028年)
ラリードрайバーを活用した交通安全啓発の回数	7回	10回以上

※現状値の実績：オートテスト4回、交通安全講習会1回、とまってくれてありがとう運動1回、グッドドライバーレッスン1回